

令和元年度 江東中学校 学校評価 報告書

評価期間:平成31年4月1日～令和元年12月31日

評価基準 A 十分達成できた B ほぼ達成できた C あまり達成できなかった D 全く達成できなかった

中期目標	短期目標	評価の観点	番号	目標達成のための具体的方策		担当	評価方法 (アンケート)			その他の評価方法	自己評価		改善の方向性	学校評価委員	
				だれが	いつ		どのように	生徒	保護者		教職員	評価		達成状況	評価
学力の育成	授業改善と教科指導の充実	各教科のアクションプランに基づき、授業改善および指導の工夫がなされている	1	全教職員	年間	・本日のめあてを明確に提示する。 ・生徒の振り返りの場や方法を工夫した授業を行う。	研究	○	○	○	・国・県の学力調査	B	・めあての提示は意識化されているが、振り返りの場の確保が十分なされていない。 ○めあての提示の仕方を工夫する。 ○1時間の中に必ず「振り返り」の場を確保した授業展開を確立する。	B	・授業の質を高めるために、今後も努力を継続していただきたい。
			2	全教職員	年間	・理由や根拠をもとに意見や考えを伝え合い、学びを深める場を工夫した授業を行う。	研究	○	○	○	・国・県の学力調査	B	・生徒がかかわりあう場面はしっかり設定できているが、かかわりあう内容の質や設定の必然性は十分ではない。 ○授業場面でかかわりあう場面を設定する目的や必然性を教員がしっかりと自覚するとともに生徒にもその意味や良さを伝える。	B	・「話し合う」ということは大切なことであり、授業の質を高めるために、今後も努力を継続していただきたい。
			3	全教職員	年間	・授業公開や相互参観を通し、自分の指導方法の改善を図る。 ・研修の成果を自分の実践につなげたり、校内に伝達したりする。	研究	○	○	○		B	・授業改善のために、授業公開は効果的だったと教職員は感じている。 ○授業デザインシートを用いて授業改善を具体化してくことを習慣化する。	B	・「授業」は完ぺきということはないものであり、授業の質を高めるために、今後も努力を継続していただきたい。
			4	全教職員	年間	・学校図書館を活用した、調べ学習や言語活動を行う。 ・司書教諭や図書ボランティアと連携を図る。	図書館	○	○	○	・教科担当者へのアンケート(前年度末)	C	・学校図書館活用については計画的な実施が不十分だった。 ○年度末に、教科指導に必要な図書についてのアンケートを実施する。 ○アンケートをもとに年間図書館活用計画を整備・活用する。	C	・インプットとアウトプットを繰り返し行うことが効果的であると思う。資料を活用した活動がしっかりとできるよう、資料を整えていただきたい。
	学習習慣の定着	家庭学習の定着・充実を図っている	5	全教職員	年間	・授業と関連付けながら、手だてを工夫し、自主学習ノートの定着・充実を図る。 ・個々の実態に即した課題の出し方を工夫する。	教務	○	○	○	・学力調査意識調査	C	・生徒は毎日家庭で自学に取り組み、ノートの提出もよい。しかし学習時間が短い生徒が多い。また、その日の復習やテスト勉強につながる内容を自分で考えるなど内容の工夫は十分ではない。 ○研究部と連携して、具体策を検討する。 ・家庭学習を充実させるため、勉強内容を例示しながらアドバイスをする。 ・授業と家庭学習とを結びつけた指導を行う。	B	・学校として、努力されていることがわかる。自分から進んで取り組む姿勢を、継続して指導していただきたい。
人間力の育成	仲間づくりの充実	学級活動の充実を図っている	6	全教職員	年間	・学級活動の内容を工夫して帰属意識を高める。	特活担当	○	○	○		B	・学級担任を中心に、SCとも連携しながら、学級活動を行うことができた。 ・帰属意識を高めるためには、さらに工夫した学級活動を行う必要がある。 ○ねらいを生徒にはっきりと示し、また振り返りを重視した活動を実施することで、活動の意味を意識化できるようにする。 ○仲間づくりトレーニングなど帰属意識を高められるような活動を取り入れる。 ○担任だけでなく他の教員やSC等と連携した活動を継続する。	B	・生徒が安定していると感じる。今後もこのまま取り組みを継続していただきたい。
			7	全教職員	年間	・生徒会活動の活性化し、生徒の主体性・協調性・リーダー性を育成する	生徒会担当	○	○	○		B	・今年度、専門委員会ごとに全校活動の企画・運営を行う活動を取り入れたことで、生徒が委員会活動への意欲を高めることができた。 ○今年度同様に、専門委員会ごとに全校活動の企画・運営を行う活動を取り入れていく。 ○今までの生徒会行事を整理していく。 ○活動、呼びかけ事項の「見える化」に取り組んでいく。	B	・今後も取り組みを継続していただきたい。
			8	全教職員	年間	・ねらいを明確にした体育祭や文化祭、修学旅行などの学校行事で達成感をあじわわせる。	教務	○	○	○	行事の後の振り返りアンケートQU	B	・学年が上がるにつれて行事後の達成感が高まっている。上級生が行事を運営することが多いためだと考える。 ○ねらいを生徒にはっきりと示し、また振り返りを重視した活動を実施することで、全校生徒が活動の意味を意識化できるよう工夫する。	B	・今後も取り組みを継続していただきたい。
	道徳教育の充実	道徳科実施に向けた道徳教育の校内体制を整備している。	9	全教職員	年間	・別業の改善、評価の工夫など道徳の授業の充実を図る。 ・グループ活動等による交流の場で考えたり体験したりすることで道徳的実践力を発揮する場とする。	道徳	○	○	○	・ポートフォリオ(生徒) ・QU(生徒) ・別業への書き込み(教職員)	B	・生徒の道徳の授業に対する意識は高まってきているが学年により差がある。 ・年間を通して別業の改善を積み重ねてきているが、未だ全職員が活用できるものにしていくには改善が必要である。 ○ローテーション授業、ゲストティーチャーを生かした授業、授業研究等を通して、「考え、議論する道徳」の授業の実践を積み重ねていく。	B	・今後も取り組みを継続していただきたい。
	人権教育の充実	生徒の人権意識の高揚を図っている。	10	全教職員	年間	・人権集会に向けた取り組みを行う。 ・機会をとらえ、生徒一人一人の人権意識を高める。	人権同和教育主任	○	○	○		B	・他者理解を進めていくために大切なことを考える人権集会を実施することができた。 ・人権講演会を通して、生徒が命の大切さについて考えることができた。 ○様々なテーマで計画的に職員研修の充実を図る。 ○職員の生徒理解に基づいたあたたかな声かけの習慣化を図る。また、生徒の気になる言動を見逃さず、指導に結び付ける姿勢の育成を図る。	B	・人権集会のように、しっかりと考える機会を継続して持ってほしい。
社会力の育成	ふるさと・キャリア教育の充実	自己理解を深めさせるとともに、キャリア発達を促す取り組みを行っている。	12	全教職員	年間	・生徒のキャリア発達を踏まえて、諸活動を計画・実施する。 ・職場体験等を通して職業観・勤労観を育てる。	キャリア担当	○	○	○	・職場体験事後アンケート ・職場体験後の生徒振り返り	B	・どの学年も「総合的な学習の時間」の改善に取り組み、学年の発達段階に沿ったキャリア教育へと転換していくことができた。 ・特に職場体験を行った3年生は、働くことについて身近に感じ、学びを深めることができた。 ○各学年においてつきたい力、育成する能力を系統化し、総合的な学習の時間を計画していく。 ○各学年での学習のねらいを明確化し、振り返りをきちんと行うことで、学習活動の意味を意識化できるよう工夫する。 ○次年度よりスタートする「キャリアパスポート」に適切に取り組む。	B	・将来の生き方を考える指導に継続して取り組んでもらいたい。
			13	全教職員	年間	・地域の教育資源を生かした課題追求学習を推進する。	総合担当	○	○	○	・成果物 ・活動後の振り返り ・県学力調査意識調査	B	・ふるさとを題材にした学習の課題を学年別に設定し、地域の方々からの協力をいただきながら学ぶことができた。 ・今年度の各活動を振り返り、来年度の活動内容や実施時期などより良いものにしていく必要がある。 ○今年度の各学年の学習の継続と工夫改善に取り組み、内容を継続し、実績を積み重ねる。 ○年間活動計画を作成し、見直しをもって活動する。	B	・文化祭の1年生の発表を見て、着地点に向かってよいまとめと発表になっていた。 ・とても大切な取り組みなので、地域の協力を仰ぎ継続、発展させていきたい。

令和元年度 江東中学校 学校評価 報告書

評価期間:平成31年4月1日～令和元年12月31日

評価基準 A 十分達成できた B ほぼ達成できた C あまり達成できなかった D 全く達成できなかった

中期目標	短期目標	評価の観点	番号	目標達成のための具体的方策		担当	評価方法 (アンケート)			その他の評価方法	自己評価		改善の方向性	学校評価委員		
				だれが	いつ		どのように	生徒	保護者		教職員	評価		達成状況	評価	所見
健康教育	健康教育の充実	生徒の健康な心と体づくりのための取り組みを行っている。	14	全教職員	年間	・週一回のフッ素洗口を実施する。 ・パースデブプロジェクト、薬物乱用防止教室等を実施する。	健康	○	○	○	・事後の生徒の感想	A	・フッ素洗口は、しっかり実施できた。 ・パースデブプロジェクトは、生命のすばらしさを感じた生徒も多かった。 ・薬物防止教室は3学期に実施予定。	○今後も外部講師を活用する授業を計画的に開催する。 ○各活動の開催日時の吟味やPTAとの協働連携を図り、親子で研修できるような工夫をする。	A	・今後も取り組みを継続していただきたい。
	基本的な生活習慣作りの充実	基本的な生活習慣作りのための取り組みを行っている。	15	全教職員	年間	・学期一回のノーメディア週間などメディアコントロールの取り組みを行う。	健康	○	○	○	・アウトメディアチャレンジ週間表	B	・「アウトメディア週間」を江津東小と連携して各学期に実施できた。 ・保健体育委員会で、集計結果の掲示物を作ることができた。 ・取り組み方に個人差があり、生徒自身が積極的にメディアを減らす努力ができる姿まで育成できていない。	○生徒会活動との連携を模索し、生徒が自分のこととして考えられるようにする。 ・保護者も巻き込んだメディア講演会や授業公開など、保護者にも危機感を持ってもらう工夫をする。 ・メディアがもたらす弊害について、保健だよりや掲示物等で、保護者や生徒に向けた啓発活動を行う。	B	・あきらめずに、継続して取り組んでもらいたい。
	体力向上の取り組みの充実	全校をあげて体力作りのための取り組みを行っている。	16	全教職員	年間	・体育の授業での運動量の確保と柔軟性の向上を図る。 ・陸上やハンドボール大会などの機会を生かし全校体制で体力の向上を図る。	保健体育	○	○	○	・新体カテスタの結果比較	B	・運動量の確保では、個人や単元によって差があった。 ・全校体制での体力の向上は、全校を挙げての活動を全教職員で取り組むことができなかった。	○運動量が少なくなる単元では、予め5分間走等の運動量を確保できる活動を行う。 ○全教職員の役割分担を明確にし、役割や生徒の状況に応じた支援を行うことを目指す。 ○自己目標を立て、個人の成長を記録し、定期的に掲示するなどして意欲の向上を図る。	B	・今後も取り組みを継続していただきたい。
安全教育	防災意識の向上	防災意識の向上のための様々な取り組みを行っている。	17	全教職員	年間	・学期一回の避難訓練を実施し防災意識の向上を図る。 ・防災に関する掲示を工夫する。	総務	○	○	○		B	・1学期は火災、2学期は地震を想定した避難訓練ができた。 ・各教室の避難経路等の表示を見やすいものに改善した。	○年間計画に基づき 学期1回以上の避難訓練を、今後も続けていく。 ○通報訓練、消火訓練など、関係機関と連携した訓練もできるようにしていく。	B	・今後も取り組みを継続していただきたい。
	安全意識の向上	安全意識の向上のための様々な取り組みを行っている。	18	全教職員	年間	・交通安全教室を行う ・春秋の交通安全週間中に登下校指導を行い交通ルールの徹底を図る	交通安全	○	○	○		B	○交通安全教室や登校時の見守り、指導等、計画的に実施することができた。 ○下校指導はあまり行うことができなかった。	○PTAと協力し、春秋の交通安全週間等を活用しながら継続的に指導していく。 ○下校時に、校門での声かけ等も行い、安全意識の持続化を図る。 ○登校路の見直しも検討していく。	B	・生徒はマナーを守って登下校している。気を緩めることなく意識化を図ってほしい。
	情報モラル教育の充実	情報モラル教育の充実のための様々な取り組みを行っている。	19	全教職員	年間	・実態把握のためのアンケートを実施し、指導に生かす。 ・情報モラル講演会等を活用して、実態に即した指導をする。	総務	○	○	○		B	・学校として取組は行っているものの生徒の自己コントロール力は十分育ってはいない現状がある。	○効果的な研修のあり方、保護者との協働のあり方を模索する必要がある。 (15と関連させる)	B	・あきらめずに、繰り返し継続して取り組んでもらいたい。
信頼される学校づくり	生徒指導の充実	生徒理解に基づく組織的な生徒指導を行っている。	20	全教職員	年間	・アンケートQ-U等の結果を分析し、個々の生徒指導にあたる。 ・教育相談や保護者面談等を積極的に行う。	生徒指導	○	○	○		B	○計画的に教育相談やアンケートQU等を行うことができた。 ○日頃の生徒観察等による実態把握や保護者との連絡をこまめにとることができた。	○学級担任による教育相談と合わせて、全職員が関われる教育相談の実施の継続を図る。 ○QUの結果をしっかりと分析し、生徒の人間関係を把握・共有し、改善に向けて取り組みを進めていく。 ○個別対応を丁寧に行っていく。	B	・今後も取り組みを継続していただきたい。
	支援体制の充実	個に応じた支援を組織的にしている。	21	全教職員	年間	・月一回、校内委員会を定期開催する。 ・市教委や関係諸機関との連携、協働を進める。 ・SC、SSW等との連携を密にし、計画的に活用する。	推進者 特支コ	○	○	○		A	・職員会を月2回とし、そのうち1回分を支援委員会として、定期開催することができた。 ・各関係機関と連携を密にし、支援を必要とする生徒へ対応することができた。	○今後も進路保障委員会を定期開催するとともに、内容を吟味し、必要に応じてケース会議を開催する。 ○支援の必要な生徒や家庭に対して役割分担をきちんと行い、チーム(担任、推進者、生徒指導主事、特別支援CO、支援員、管理職)として対応していく。	A	・教職員が孤立することがないように相談体制を作ってほしい。 ・学校だけでなく自分たち保護者も地域の者もいつでも協力する。
	学校予算の適正活用	適切で有効な予算計画を立て、適切な執行を行っている。	22	全教職員	年間	・前年度の執行状況と本年度の教育計画から費用と予算を見直し、適切に執行する。	事務	○	○	○		B	・年度初めに各教科の備品・消耗品等の予算額について要望等取りまとめ、計画的に執行できた。	○印刷費の支出が多いため、節約できる使用方法をもう少し明確に示していく。 ○今後も職員と連携して、教育環境改善のため効果的な予算執行をしていく。	B	・市教委への申し入れも継続して行ってほしい。
	安全な学校環境作り	安全な学校環境作りの取り組みを行っている。	23	全教職員	年間	・月一回の安全点検を行い、速やかに修繕、改善提案をする。	安全管理	○	○	○		B	・定期点検と日常の見回り等から、修繕が必要な箇所を把握し、改善につなげることができた。	○計画に基づき定期的に点検し、速やかに市教委等との連携を図っていく。	A	・学校がきれいな環境に整備されている気がする。施設の改善も図られている。
	学ぶ場にふさわしい学校環境作り	学ぶ場にふさわしい学校環境作りの取り組みを行う。	24	全教職員	年間	・ICT機器などの充実を図る。 ・掲示物等を工夫し、学ぶ場にふさわしい環境を整える	総務	○	○	○		A	・教室へのエアコン設置、発表用ホワイトボードの整備など、整備を確実にすることができた。	○今後も、教職員の声に耳を傾け、学び場にふさわしい環境づくりを推進していく。 ○掲示板の効果的な活用のために、掲示担当の明確化を行う。	A	・今後も学びにふさわしい環境環境に努めてほしい。
	積極的な情報発信	家庭、地域に向けての情報発信を積極的に行っている。	25	全教職員	年間	・学校だより、学年通信を充実させるなど情報発信を工夫する。	総務	○	○	○		B	・各学年において学年通信等で学級の様子などを情報発信することができた。	○学年通信等での情報発信を定期的に行うなど、より細かな情報発信に心がける。 ○ホームページの充実と定期的な更新を行う。	B	・今後も情報発信に努めてほしい。
	組織として対応する教職員集団の醸成	組織として対応する教職員集団となるような取り組みを行っている。	26	全教職員	年間	・報・連・相を徹底し、組織的に対応する。 ・担任者会等、連絡会を有効に活用する。	総務	○	○	○		B	・チームとして補い合いながら、組織的な対応ができていてと感じている教職員が多い反面、主任のリーダーシップを求める声もある。	○会合の定例化など、組織として、役割や進捗状況が確認できる体制づくりをすすめる。	B	・今後も、組織的な対応を大切にしたい。
働き方改革の推進	働き方改革の視点から、様々な取り組みを行っている。	27	教頭	年間	・働き方改革の視点から、個人としてまた学校として業務改善に取り組んでいる。	総務	○	○	○		C	・常勤職員の約25%が月80時間以上の時間外勤務を行っている。	○業務量の削減と平準化(均等化)をいかに進めていくか、学校全体で考えていく。	B	・教育の場で、この項目を評価に入れて考えるのは難しい問題ではないか。 ・今後も業務改善に取り組むとともに職員が安定した気持ちで仕事ができる職場を目指してほしい。	